

てしお

第 136 号

平成 24 年 2 月 1 日発行

# 議会だより



平成 24 年天塩町消防団出初式・登梯 (1月 5 日撮影)

## 目次

○第 4 回町議会定例会、専決処分、補正予算ほか	2 頁
○第 1・2 回町議会臨時会	3 頁
○一般質問 (2 氏 3 件)	
・山本議員 「公共施設における管理について」	3 頁
・横山議員 「大規模風力発電施設構想について」ほか 1 件	4 頁
○行政報告	6 頁
○道内所管事務調査報告	7 頁
○議会日誌など	8 頁

# 第4回天塩町議会定例会

12月定例会は、12月15日から1日間開かれ、町長・教育長による行政報告に続き、2氏3件の一般質問のあと、一般会計補正予算など審議し、原案のとおり可決しました。



## 一般会計補正(専決第2号)

216万6千円を追加し、総額を41億8千803万円に  
(平成23年11月22日専決)  
東日本大震災に係る消防団員等公務災害補償に要する経費の増加に伴う消防事務組合負担金の補正



○一般会計  
23年度一般会計補正予算(第4号)は、6千166万2千円を追加し、総額を42億4千969万3千円に

○国民健康保険特別会計(事業勘定)  
国民健康保険特別会計補正予算(事業勘定)(第1号)は、3千449万3千円を追加し、総額を5億4千349万3千円に。

## 一般会計補正予算(第4号)

歳入	単位:円
子育て支援事業交付金	3,054,000
地域支え合い体制づくり事業補助金	5,000,000
留萌地域活性化協議会助成金	8,400,000
高規格救急車整備事業	8,200,000
天塩高校通学対策事業	6,000,000
天塩高校通学費助成事業	14,000,000
住宅リフォーム助成事業	10,000,000
生活路線等維持費助成事業	12,000,000
天塩高校学力向上対策事業等補助事業	5,400,000
天塩町農業後継者対策事業	1,000,000
天塩町新規就農者等誘致促進事業	6,000,000
天塩町酪農ヘルパー推進協議会補助	6,900,000
町民保養センター修繕事業	10,000,000
その他	△ 34,292,000
計	61,662,000

歳出	単位:円
行政ネットワーク整備経費	525,000
財政調整基金等積立金	56,000,000
後期高齢者医療給付対策事業	1,655,000
地域支え合い体制づくり事業	5,000,000
子育て創生事業	3,054,000
町道維持補修整備経費	900,000
スクールバス運行経費	2,245,000
屋内多目的施設活用事業	8,620,000
その他	△ 16,337,000
計	61,662,000



○天塩町立学校設置条例の一部改正  
・更岸小学校閉校に伴う小学校名の削除

○天塩町職員の給与に関する条例の一部改正  
・職員給与表の一部改正  
・平成18年改正条例の経過措置の改正

**質問**  
 学校内のボイラー室、配管設備の腐食が非常に激しく、いつ破損してもおかしくない状況です。  
 学校の配管設備などは、不具合があれば速やかに対処されることが大事であり、経費も少なく収まるのではないのでしょうか。  
 また冬期間におけるボイラーの使用は当然ですが、夏の夏期の間、暖房の必要がありません。給食等の厨房使用はボイラーでなくともガス湯沸かし器などで十分まかなえるものと考えますが。

山本春光 議員

# 天塩中学校の施設の老朽化問題を対処すべき

## 町長 学校教育上支障のないよう取組めます



山本 春光 議員

同時に学校グラウンド側にあります町民プールの屋根部分の鉄骨の錆がひどく、町民の方々からプールの鉄骨部分が錆びていて今にも破片がプール内に落ちてきそうだとのお話があり、実際に落ちた鉄骨も見てまいりましたが、いずれも事故が発生してからは遅すぎるのでは。  
 今後どう対処されるおつもりなのかご見解を。

**町長**  
 天塩中学校は、本年度建築後15年目を迎えまして、校舎、屋内運動場などの老朽化が進みだしているのが現状です。  
 これまで大きな改修工事を行ったのは平成21年度に屋内運動場側の屋上部分の防水・改修工事、下水道整備工事を実施した以外は部分的に維持補修にて管理執行をしております。  
 配管設備が老朽化していることはご承知のとおりでありますので、配管の全面改修も考慮した取り組みを

していかねばならないと考えているので、少しのお時間をいただきたいと思えます。

また、給食室には「厨房用のガス湯沸かし器で賄えるのでは。」とのことですが、このことにつきましても設置場所、使用効率、設置費用及びコスト面などを総体的に検討してまいりたいと考えております。

次に町民プールに対してのご質問ですが、多額の改修費用を要することが想定されますので、今後この工事の方法等について検討してまいります。

**質問**  
 わずか13年余りで、億単位の建設費を投じた施設の老朽化が進むとすれば、これはもう建設上、大変なことでは。

対策として、先生方は転勤あり、なかなか申送り事項の中では建物の部分までは怠ることもあるので、学校側から連絡があれば速やかに対応できる体制を作るべきでは。

**町長**  
 長期的な展望をみながら多面的に取り組めるよう学校関係者と協議を行います。  
 また、学校の教育上、運営に支障のないように取り組んでいくように努力をしたいと思えます。

### 第1回町議会



1月10日

○町税条例の一部改正を専決

○町葬の執行について議決  
 天塩町名譽町民故石山直行氏

○平成23年度一般会計補正予算(第5号)を議決  
 町葬執行に伴う経費611万円を計上

○町税条例の一部改正を議決

### 第2回町議会



1月17日

○平成23年度一般会計補正予算(第6号)を議決  
 東日本大震災に伴う飼料支援事業の経費1千649万円を計上

○天塩町過疎地域自立促進市町村計画の変更を議決

横山 敦 議員

## 再生可能エネルギーへの代替えを行うべき

### 町長 導入に向けて協議・検討します



横山 敦 議員

3・11の東日本大震災以降、脱原発が全国各地で叫ばれる中、再生可能エネルギーへの代替を今こそ検討するべきでは。

全国でも比較的風力発電の適地とされる当町として、このような大規模風力発電構想に対して大規模風力発電施設の建設をオロロン地域一帯で決めた場合、当町として建設地の確保や施設誘致等を積極的に行っていく考えがあるのか。

町長

道北の日本海沿岸で大規模風力発電施設群の実現を目指す通信大手ソフトバンク社と留萌管内8市町村等との出席で送電網や法制度などの課題について検討する目的から当協議会の第1回の会合が開催されました。

協議内容は、今後、建設を進める課題として、送電線設備の施設の国の関与、普及に向けた農地法などの規制・制度上の緩和措置、平成24年7月1日の施行に向けた「固定買取

価格制度」の着実な施行と適正な価格などの意見が交わされ、来年の夏ぐらいまでは、送電線の整備、電力買取価格、農地法の規制緩和などの課題を検討・整理し、国への要望を取りまとめたいことといたしました。

また、ソフトバンク社からは、発電能力150万キロワット程度の施設群を建設する方針が示されました。次に、当町の建設地の確保と施設誘致等ですが、風力発電施設には様々な課題がありますが、天塩は風が強く、風力発電のポテンシャル、潜在的な可能性が高い立地条件を有しております。

これを生かして、地域づくりは地域振興に有効な取り組みと考えております。

建設可能な場所や設置可能な基数などの諸課題について、議会や関係機関とともに協議・検討して進めてまいりたいと考えております。

質問

ソフトバンク社がいう、発電能力150万キロワットとは、具体的にどれくらいの発電量に相当するのでしょうか。同時に自然エネルギーによる発電と共に電力の使用料を抑える省電力化、省エネルギー化に取り組む必要があると考えますが、役場庁舎をは

じめとする公共施設に使用している照明の更新時にLED電球などを取り入れることや天塩小学校の改築計画にエコスクールの整備推進を盛り込み、高断熱化や省エネ型設備の導入は。

町長

天塩町内には風車が3基ありますが、これは1基800キロであります。このレベルだと1875本必要になります。

また、泊原子力発電3号機に換算すると1・6倍になります。

省エネルギー導入に向けた、全体的な計画にむけた努力をまずは小学校の建設から目指していくべきだと思っております。



天塩町内にある3基の風車

質問

通信大手のソフトバンク社は、当前町など日本海沿岸の留萌・宗谷管内に大規模風力発電施設群の建設実現に向け検討していると新聞等で報道されております。

これに伴い12月2日に留萌管内8市町村、稚内市、豊富町、幌延町の11市町村で構成する「オロロン地域の自然エネルギーを活用した地域活性化に関する研究会」を発足させ、自然エネルギー導入に伴う同地域の活性化策などを協議すると聞いております。

## 道路状況に応じた除排雪をすべき

町長 関係機関と協議し実施してまいります

せん。

また近年、除雪費削減の影響により、市街地の排雪も雪がかなり高く積み上げられなければ実施しておらず、旧国道の新栄通の道幅かなり狭く、蛇行している現状にあります。

特に市街地の交差点付近の見通しが非常に悪く、通学する児童、生徒や車両通行において大変危険な状況になっております。

そこで町道の維持管理体制として、1、天塩バイパスの全面開通時期と開通後に町へ移管される旧国道の延長は、

2、移管後も開発局同様、冬期間に防雪柵を設置するなど安全確保対策は、

3、町道の除・排雪の出勤基準及び回数。

4、道路状況に応じた除・排雪の実施、交差点付近の一部排雪、カットを実施しては。

町長

(1・2) 天塩バイパスの全面開通時期と町に移管される旧国道の延長については、23年度中で完成予定で移管される予定の国道延長は、5.8 kmです。

移管後の冬期間に防雪柵を設置するなどの安全対策については、現在開発と移管について協議中です。

(3) 町の除雪は、現在午後5時以

降の夜間除雪は行っておりませんが、国が管理していた時と同じ24時間除雪体制の管理はできないものと考えております。

町道の除排雪の出勤基準及び回数については、出勤の基準を積雪が10 cm以上から出勤することを基本とし、作業は通常午前5時から開始し、昼間のみの除雪となっております。

排雪については、2月の初旬・3月中旬を目安に2回を予定しております。

(4) 除雪については、状況に応じ10 cm以上の降雪時に行い、排雪につきましては道路の状況によりカット排雪を行い、道幅の拡幅を行います。

また、交差点付近の一部排雪・車及び人の通行の安全のためのカット排雪を増やし、融雪剤の散布、路面整理等の冬道の安全確保を図ってまいりたいと考えております。

冬期の除・排雪費用は、天候により左右されますが、住民に不便をかけるまいよう努めてまいりたいと考えております。

質問

天塩バイパス開通後も現国道の5.8 km部分は引き続き国で管理していたが、地域住民に不便のないよう維持管理してもらうべきでは。

また、冬期間新栄通の沿線住民は雪を捨てる場所の確保が困難なため

車道側に高く堆積することしかできず、町内でも一番交通量が多い路線にも関わらず、時には車の対向も危険な状況になります。

高く雪が積み上げられ、交差点の見通しが悪く、道幅が確保できないため、児童が通学するには非常に危険な道路状況であり、保護者の方々からも始業式前の排雪を強く要望されている。

雪の堆積量が多い路線のみ排雪回数を増やすことや排雪時期を2月初旬から1月中旬にするなど適切な時期に実施することは可能か。

町長

町で改善できるところや自力でできることは行い、駅前通等の道路については関係機関と協議し除雪を行ってまいります。

質問

現在、工事進行中の国道232号線「天塩バイパス」事業は総延長8 kmのうち供用開始されている市街地の約3 kmを除く、南川口・北川口方面の残り約5 kmも予定では本年度中に供用開始とされている。

しかし、これに伴い、天塩バイパス開通後、南川口から北川口の区間が町へ移管され、町が管理することになると思われますが、特にこの区間は冬期間、地吹雪や吹きだまりなどによる交通障害がたびたび発生し、住民や事業所は大変危険な通行を余儀なくされることには変わりありません。



23年度中に完成予定の天塩バイパス

○天塩町の産業振興に係る経過報告について

11月8日付けで東京地方裁判所が(株)安愚楽牧場の民事再生法による再生手続きを廃止し、保全管理命令を出し破産法の手続き開始を前提とする決定が出されたことを預託農家より依頼の弁護士より連絡を受けました。

天塩町としては、預託牧場がこれまでの預託方式での営農を継続するため、直営牧場の代替企業の模索を各方面にしてみました。

当町で一貫肥育を行っている(株)宗谷岬牧場の親会社である、(株)ジェイ・イー・ティーファームが大規模な事業展開をしていることから、本町の現状を説明し事業継続の道を模索したいと考え、11月15日に栃木県の本社に出向き、要請活動と情報収集を行ってまいりました。

町内の預託牧場主は、今までの方式での継続を望んでいるが、安愚楽の牛には、いろいろな問題があり、そこをクリアしなければ当社も相談に乗ることは難しいとの返事でありました。

そんな中、(株)ジェイ・イー・ティーファームが、問題点が整理されるなら取得したい意向であること、条件

面では直営牧場の従業員22名と全頭の牛も引き受ける旨の返事が来たことと、預託農家は未払い預託料と全頭の預託牛の相殺で買い取りが可能となった旨の連絡を弁護士を通じました。

12月4日までの預託料を各預託農家に支払う前提とする契約内容での説明がなされたので、各預託農家は、預託牛の売買を締結することを承諾したところです。

今後は、市場に通じるような繁殖牛の転換へ進む方向で継続すること、又自己所有の牛となったので厳しい状況ではありますがこの困難を乗り越えて、活路を見出していた、たまたま切なる期待をしているところです。

直営牧場の件も、引受先ができたことで、畜産振興のみならず、雇用問題と地域経済においても一応の目処がついたのではと考えております。

○天塩厳島神社天塩町有形文化財の指定について

天塩厳島神社は、文化元年(1804年)現在の海岸通り5丁目に小堂を建立し弁財天を祀ったのが始まりとされており、時代の変遷とともに、明治43年に現在建立されている川口基線へ移設、大正15年、昭和17年迄に新築、改修が繰り返され、その後、昭和52年には拝殿内部の改修が行われたところであります。

さらには、このたび「天塩厳島神社社殿修復期成会」の取り計らいによる、町民からの寄付により社殿修復がなされ、町民の貴重な歴史的財産として、守り続けて行こうとの気運が高まったところであります。

宗団法人「天塩厳島神社」から文化財指定に係る申請があり、「天塩町文化財保護審議委員会」に「諮問」をし、審議をしていただいていたところ「答申」があり、教育委員会として「天塩町文化財保護条例第4条第6項」の規定に基づき、「天塩町有形文化財」に指定したところであります。

○水道水源地地下水調査について

民の生活水である水道水を、災害に強く、安定的に住民に供給するためボーリング調査を行いました。調査は、更岸地区2か所・泉源・産士地区2か所の計4か所で行った。調査と、水量と水質調査について行いました。

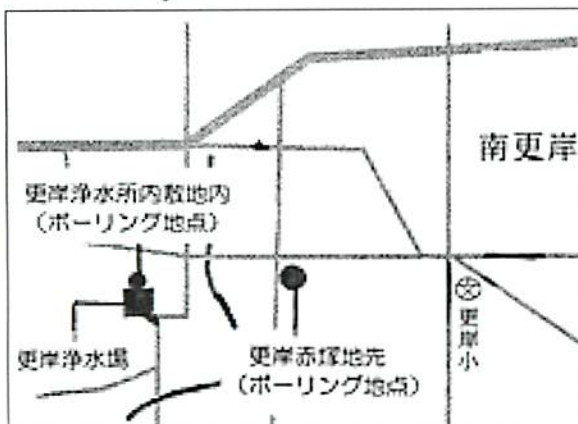
水質については、4か所の地点の水質を、水道法に基づく水質基準により50項目の検査を行ったところあります。4か所とも浄水処理することにより、飲料水については問題がない水質ということでありました。詳細については、基本計画が策定されるまでに、皆様にご説明したいと考えております。



泉源地区ボーリング位置図



産士地区ボーリング位置図



更岸地区ボーリング位置図

# 活動報告

道内所管事務調査は総務文教常任委員会が平成23年9月27日から9月30日まで4日間、産業厚生常任委員会が平成23年9月28日から9月30日まで3日間行われ、今定例会に報告されました。

## ○総務文教常任委員会

○小学校改築における事業内容と太陽光発電及び雨水利用設備の運用状況について

- ・調査場所 十勝総合振興局 帯広市立清川小学校
- ・調査年月日 平成23年9月27日～28日

### 【調査の目的】

天塩小学校の改築計画が大詰めを迎えた中、近年の異常気象による自然災害、特に天塩町においては昨年8月に見られたような豪雨災害を起因として生活用水の確保に困難をきたした、更には本年3月の東日本大震災以降、自然環境を利用した太陽光発電や風力発電が再考されてきている。平成24年度からの天塩小学校改築実施設計に向け、各関係部署において準備・計画が進んできている

ところでもある。そこで、災害時において学校が地域の避難所、防災活動の拠点として重要な役割を果たすことから、学校施設への雨水利用・太陽光発電の導入は、平時は生徒が有効に活用しながら緊急時に備えるという基本的な考え方、更には環境教育の教材としての活用や環境負荷低減の効果が期待されるとの考えから、今回、雨水利用と太陽光発電の両設備を有効活用している、帯広市立清川小学校を視察研修先に選択し、その施設の運用状況を調査したものである。

### 【調査のまとめ】

清川小学校は、改築に当たり児童からの意見や検討委員会（町内会・PTA・先生等）での検討内容により設計が行われたエコスクールとして、環境に配慮した学校の実態を調査したところである。

天塩小学校の改築計画に際しては、使用する側の児童・教員もさることながら、学校としての専属性に捉われない、地域住民の利用をも視野に入れた学校施設が求められると考え、災害時において学校が地域の避難所、防災活動の拠点として重要な役割を果たすことから、天塩小学校での雨水再利用（貯水）施設、太陽光発電の導入は、環境教育の教

材としての活用や環境負荷低減の効果の期待に加え、災害時避難所機能が発揮できる各種設備・備品等の増設を加味した災害時避難所対応型小学校の建設が併せ考えられる。

更に、本町には、児童・学童が授業の終了後に児童館等を利用して、適切な遊び及び生活の場を与え健全な育成を図るための学童保育を専門とする施設が無いことから、小学校・災害避難所・学童保育施設を併せ持つ「三位一体型施設」としての天塩小学校が考えられないか考量を要するものと思われる。



帯広市立清川小学校

勇払郡安平町認知症グループホーム「さかえ」

・調査年月日

平成23年9月28日～29日

### 【調査項目及び内容】

#### ①町からの指定管理料について

施設・設備整備の全額を町で出してもらっているため、指定管理料についてはもらっていない。また、補修について、当法人の責に帰さないものであることから、安平町が対応している。

#### ②入居者の募集方法について

利用者の動向及び空室の入居者状況を、月に1度開催される町主催の地域ケア会議で報告するほか、その都度町内各居宅介護支援事業所と協議して入居を勧めるようにしている。

#### ③入居者費用について

グループホームの平均利用料金（月12万円）と比較すると、平均60%程の低額で入居できる。

これは、農業者が多い土地柄を考慮し、家賃を月額10,000円に抑えた効果によるものである。更に、光熱水費も使用頻度にかかわらず、5,000円の定額に設定したことで入居者及び家族の負担軽減を図っている。

## ○産業厚生常任委員会

○グループホームの運営について  
・調査場所 胆振総合振興局管内

# 議会の動き

12月

- 7 国土交通省北海道局山本港政課長との懇談会〔議長・菊地議員〕
- 8 全員協議会〔全議員〕  
議会運営委員会〔全委員・議長・副議長〕
- 9 畜産業の振興に係る経過報告〔留萌市・札幌市／議長・菊地議員〕
- 15 町議会第4回定例会〔全議員〕
- 19 関係機関年末挨拶〔留萌市／札幌市、議長〕
- 25 新党大地第7回大望年会大地祭〔札幌市／議長〕
- 29 全員協議会〔全議員〕  
議会運営委員会〔全委員・議長・副議長〕

1月

- 5 天塩町消防団新年総合出初式〔議長・7議員〕
- 6 天塩町新年会〔議長・7議員〕
- 8 天塩町成人式〔議長・7議員〕
- 10 町議会第1回臨時会〔全議員〕  
議会運営委員会〔全委員・議長・副議長〕
- 17 町議会第2回臨時会〔8議員〕
- 18 厳島神社修復期成会〔議長〕
- 20 天塩町観光協会新年会〔議長〕
- 21 故石山直行名誉町民町葬〔全議員〕  
第4回道北・道東下の句歌留多大会〔議長〕
- 23 天塩商工会新年会〔議長〕
- 24 議会広報特別委員会〔全委員〕

【調査のまとめ】  
経営方針である「介護サービスの主役は職員ではなく利用者である」という精神が職員にしっかりと徹底されており、真心こめた介護をすることによって職員と利用者との間に信頼関係が築けている点に関心した。施設運営で一番重要なのは、設備の整った施設を用意することではなく優秀な職員をいかに確保、育成していけるかであり、でなければ質の高い介護サービスは行えない。  
天塩町においても、認知症高齢者を自宅で介護することが困難な家庭が存在、増加することが考えられる。



布草履を作る入居者

このことから将来的に「さかえ」のような認知症グループホームについて公営・民営を問わず必要と考える。

## ○総務文教・産業厚生常任委員会

○勇払油田・ガス田概況及びプランの現状について

・調査場所 胆振総合振興局  
苦小牧市石油資源(株)北海道鉱業所

・調査年月日  
平成23年9月29日～30日

### 【調査の目的】

日本の発電は火力と原子力をベースとして水力や地熱発電、そして風力や太陽光などの自然エネルギーを用いて発電されている状況である中、東日本大震災による東京電力福島第1原子力発電所放射能漏れ事故後、更なる脱原発の気運が高まっている。過去に（昭和59年）町内で試掘実績がある天然ガス資源開発の再考のため、勇払油田・ガス田の概況とプランの現状を視察し、本町における可能性の参考に資するため、その施設の概況と現状等を調査したものである。

### 【調査のまとめ】

今回調査した勇払油・ガス田は、北海道における都市部を中心にクリーンで安全なエネルギー供給を行いつつ、地区内の豊富な埋蔵量、原発事故で広がる天然ガス特需を背景に北海道のみならず日本の天然ガス

エネルギーとしても期待できるガスプランの位置にあると考えられる。現在、同地区の隣接地区で新たな鉱区の試掘を展開中であるが、一本の試掘には莫大な経費と時間を要するが、今後の需要状況によっては、過去に試掘済みの本町北川口天然ガス資源の再試掘・開発も皆無ではないとの説明があった。  
今後の本町での天然ガス田開発に対し、仄かな期待を込め本報告とする。

訂正とお詫び

【議会だより155号11ページ】

### 誤

所管事務調査報告

総務文教常任委員会

調査日 平成23年8月12日

### 正

所管事務調査報告

総務文教常任委員会

調査日 平成23年10月25日

### 【編集委員】

議会広報特別委員会

委員長 川端 英嗣

副委員長 横山 敦

委員 山本 春光